

モデル事業名	こやだいら・住民まるごと地域力向上事業
活動団体名	木屋平水源の里協議会
ホームページ	—
所属／ 担当者名	木屋平水源の里協議会 会長 阿部義則
連絡先	会長 阿部義則 (TEL0883-68-2411) 美馬市市民環境部ふるさと振興課 中川 (0883-52-8009)
活動地域	徳島県美馬市木屋平

● 活動地域の概要



【位置図】

四国の名峰剣山の山懐に抱かれる木屋平地区（平成17年の町村合併までは木屋平村）は、山間地に集落が散在する地域で、その豊かな自然のなかで、農林業を主産業として、約千人が生活しています。近年は少子高齢化の進行、人口流出が著しく、平均年齢59歳、高齢化率は52%に達しており、ほとんどが「限界集落」となっています。



● 活動地域の課題

少子高齢化や人口流出の著しい進行は、高齢者のみ世帯、高齢者単独世帯の増加につながり、地域コミュニティの活力低下や、農林業の衰退、環境破壊、地域福祉や防災の担い手不足が深刻となっています。こういったことから、高齢者はもちろんのこと、高齢者を支える家族や近隣の住民も生活に不安と不便を抱えながらの生活となっており、暮らしの安心の確保をはじめ、剣山や、吉野川水系の美しい自然環境の保全、農林業の再生、伝統文化の保護・継承について、地域全体として支えあう仕組みの構築が、地域の生き残りにかつた喫緊の課題といえます。

● 活動の内容

・平成20年度

1. 調査事業

- (1) 高齢者実態調査 地域の状況把握、調査体制の組織化、調査表の作成、地区割り等の事前準備を行い、訪宅・巡回調査等を行った。
- (2) 環境実態調査 同上
- (3) 地域観光資源調査 同上
- (4) 地域文化調査 同上

2. 活動（試行）事業

- (1) 高齢者の暮らし安心づくり事業
 - ①NPO こやだいらが進める有償運送システムとの連携
 - ②ひとり暮らし高齢者の見守り、訪宅確認体制の確立
- (2) 遊休地の管理や美しい事前の継承等の環境保全事業
 - ①間伐材を活用した不法投棄防止啓発看板の設置
 - ②木屋平環境管理協議会設立・・・生活道路等の草刈りや支障木の伐採、希少動物の保護、カワニナ放流、間伐材活用観光案内板の設置
- (3) 経験者のスキルを活かした地域全体で支える農林業再生事業
 - ①農林業サポーター協議会の設立・・・間伐材再利用作業、中尾山栗園の整備（消毒、施肥、案内板設置、中尾山高原施設との連携）
- (4) 世代を超えた地域文化振興事業
 - ①傘踊り、獅子舞、まわり踊り、木屋平太鼓の伝承活動
 - ②イベント開催（中尾山高原ライブ、産業文化祭）



● 活動の成果

・平成20年度

1. 調査事業

従来、体感しながらも把握ができていなかった高齢者や環境などの地域の実態が具体的、量的に実感できた。これにより参画メンバーをはじめ地域住民が、対策の必要性や緊急性を確認することにつながり、調査体制の確立や日ごろの関心が高められてきた。そこで、協議会の設立による連携活動で、具体的に何が必要なのか、何が効果的なのかを協議し、活動事業につながる計画を立てた。



2. 活動（試行）事業

調査事業により得たデータや協議会での方針に基づき、実際に地域で活動を行うことで、既存のNPOや地域活動団体と連携して、さまざまな取り組みを行うことができた。

(1) 高齢者の暮らし安心づくり事業

安否確認見守りネットワークによる活動で、ひとり暮らし高齢者の遠隔地の家族や周囲の住民たちも安心して生活できる。また、既存NPOの有償運送システムとの連携により、高齢者サービスの迅速化、的確化が図れるようになった。

(2) 遊休地の管理や美しい自然の継承等の環境保全事業

他地域からの産業廃棄物投棄やドライバーによるポイ捨て対策として、地域見回り体制の確立や啓発看板の設置により、地域内ではポイ捨てや不法投棄が出来ない環境づくりの必要性が確認された。また、往時の木屋平の自然を復活させるためのホテルの復活が始まっている。

(3) 経験者のスキルを活かした地域全体で支える農林業再生事業

農林業サポーターの組織化により、高齢化や担い手不足による農林業作業の停滞に対する支援が進んできている。また中尾山栗園は、長年の作業不足による観光栗園としての機能低下が見られていたが、防除・施肥等の管理体制の確立により、観光園としての機能回復がされ、中尾山高原施設や産直市などと連携活動に至っている。



(4) 世代を超えた地域文化振興事業

既存の地域文化団体の活性化につながり、伝統芸能の継承を地元小中学生を中心に行うことが出来ている。また、産業文化祭では、活動結果の披露を行い、今後の地域芸能継承の高揚を図った。

● 今後の課題及び展望

・課題

- 高齢者の安否確認活動では、ひとり暮らしの不安の解消により、遠隔地で暮らす家族との同居が先延ばしになったとの報告がある。
- 不法投棄防止活動では、啓発看板設置や監視等の活動を行ったにもかかわらず、夜間の不法投棄等は後を絶たない状況であり、今回の活動から更に発展した取り組みが求められている。

・展望

- 本地域にはNPO法人こやだいらが過疎地有償運送を行っており、また地域文化や芸能の振興を目指す木屋平地域づくり実行委員会、そして行政の三者で、町村合併後の地域の元気づくりに苦慮しながら取り組んできた。
- 今回の取り組みでは、時間的な厳しさのなかで、将来にわたる活動の基盤づくりを目指し、主に組織づくりと今後の継続的な活動の手法を試行的に行うことにした。
- 過疎化の中で、活動の担い手は年々減少しているが、ほかにも元気な住民も多く存在し、その中からも地域づくりの一役を担う人が出現してきた。
- このようなことから、今後も「新たな公」で得た「データ」「実態」「人とのつながり」などの成果や経験を、前出の団体と連携し、発展・進化させていくことで、今日も活動を行っている。